

2023 年度 日本緑化工学会賞 講評

今年度の選考では、本年 2 月に刊行された学会誌 48 巻 3 号に受賞候補者の推薦依頼が掲載され、本年 5 月 12 日まで推薦を受け付けました。推薦された候補者について学会賞選考委員会で慎重な審議を行い、理事会の承認を受け、本年は研究奨励賞 1 名、技術奨励賞 1 名、功績賞 1 名に授与することとしました。

受賞理由は以下のとおりです。

・研究奨励賞

受賞者：松岡達也氏（清水建設株式会社）

題目：屋上緑化におけるセダムの混植が蜜源植物の生育に及ぼす効果に関する一連の研究
受賞理由：松岡氏は都市域の粗放型屋上緑化において、生態系サービスの観点から蜜源植物を導入するための緑化技術としてセダムの混植効果に関する研究を行っており、特に薄層土壌で施工される粗放型屋上緑化で求められる夏季の土壌乾燥化に伴う植物体の生育不良を防止する効果に着目し、その効果が顕著にみられるセダムの生育特性を解明している点が特徴的です。これらの研究は緑化材料の観点から屋上緑化技術の開発・発展へ貢献が期待できるものであると評価できます。また、その成果は緑化工学会誌の論文に 2 編、技術報告に 2 編、いずれも筆頭著者として報告されていることから、研究奨励賞の授与を決定いたしました。

・技術奨励賞

受賞者：佐藤厚子氏（国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所）

題目：メッシュシートを用いたオオイタドリの生育抑制手法の開発に関する一連の研究
受賞理由：佐藤氏は北海道に広く分布し、生育が旺盛なことから交通安全上の問題となっているオオイタドリに着目し、その生育抑制を目的とした維持管理手法の開発に取り組まれています。具体的にはメッシュシートを用いることで、オオイタドリに対して高い生育抑制効果が得られることなどを明らかにしており、今後の北海道における道路緑化技術の向上に資するものであると評価できます。また、その成果は緑化工学会誌の技術報告に筆頭著者として 4 編報告されていることから、技術奨励賞の授与を決定いたしました。

・功績賞

受賞者：小林達明氏（千葉大学名誉教授）

題目：緑化分野における再生生態学の研究と普及に関する功績

受賞理由：小林氏は永年にわたり、乾燥地、里山、都市緑地、干潟といった様々なフィールドで植物の水分生理、生物多様性保全、地域性種苗による生物多様性緑化技術など多岐にわたる研究・教育に取り組んでおられ、それらの成果から平成 17 年度日本緑化工学会賞論文

賞さらには技術賞を授与されています。また、再生生態学の研究・教育の手法を日本で発展させたことは、特に重要な業績であり、再生生態学が目指すレジリエンス(回復力)を備えた緑地生態系の重要性は、緑地造成・管理・利用を考える際の礎として、多くの研究者・技術者に影響を与え続けています。また、多くの書籍を執筆するなど、研究成果の普及に努められています。本学会においては2009年から2011年にかけて会長を務めるなど多くの役職に就き、ICLEEの初代事務局長として日本の研究者の国際的な研究交流の促進に貢献されたことから、功績賞の授与を決定いたしました。